

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	おうちだ		
○保護者評価実施期間	R7年 1 月 13 日		~ R7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	R7年 1 月 13 日		~ R7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R7 年 3 月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種協働による丁寧な支援を提供している。	保育士、看護師、理学療法士などの専門職がゆったりした環境の中で個々に応じた支援を提供する。 必要に応じて、実施可能な方は活動などを調整し特殊浴槽による入浴支援を行っている。	子どもさんや保護者、学校、訪問看護、リハビリ先の医療機関とも連携し、より個々に適した支援を実施する。
2	社会資源を活用し、お子さんの希望も聞き社会体験活動を実施している。	小学生から高校生までの利用者の生活年齢を意識して、ご本人の希望を聞きながら社会体験活動を行っている。	ご本人の年齢、要望、経験などを丁寧に聞き取り継続実施したい。
3	事業所建物内において、幼児から成人までの幅広い年代において触れ合う機会を設けている。	児童発達を利用する幼児さん、放課後デイサービスを使用する岳豪さん、お互いに他児を意識し時間や環境を共有している。また同じ建物内で、生活介護、グループホームなどの事業も実施している為、高校を卒業した後の過ごし方や暮らしについても身近に見学することができる。	放課後デイサービス終了後、高校卒業後の進路や生活についても、本人や保護者と話をしていきたい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	重症児、医療的ケア児に対する知識が不足している(管理者、児童発達管理責任者)。	重症児さんの支援においては、呼吸、姿勢、変形・拘縮・筋緊張、移乗、食事・摂食、排泄、コミュニケーション、健康、医療的ケア等の生活機能の障がいがあり、重複する場合もある。発達障害障害児の支援に比べると、文献や研修も少なく十分な知識を積み重ねることができていない。	管理者や児発管の自己学習や研修、お子さんや保護者、専門職員の協力、他機関の専門職や関係機関との連携などを重ね改善する。
2	専門職、基本的に必要な人員配置を継続的に確保し続けることに苦慮している。	放課後デイサービスのサービス提供終了時間である17:45まで勤務可能な職員、専門職(保育士、看護師、ST、OT、PT等)を、継続的に安定して配置することに難しさがある。	今後も法人内の協力を得たり、短時間勤務可能な職員の確保を行ったりする。
3	市町村によって異なる受給者証の支給量に沿い、定員5名の利用を確保している。重症児を支援する事業所として人員配置基準を満たし、収入を確保して安定的な運営を継続することが難しい。	お子さんや保護者の希望、事業所の都合を調整して利用児さんの利用予定を立てているため、その日に利用するお子さんの年齢や身体機能、支援内容に幅が生じる。年齢や機能面に適した活動を計画し実施することは課題である。	重症児支援の課題や難しさを、他事業所や地域と共有していく。